

第 39 回土木計画学研究発表会（春大会）：2009. 6. 13～14（徳島大学）

企画論文部門 セッション討議内容の記録

セッション名：土木と学校教育	
日付： 6月 13日（土）曜日，セッション時間： 10:10 ～ 11:40	
オーガナイザー・司会者名（所属）：松村暢彦（大阪大学大学院工学研究科）	
討 議 内 容	<p>セッション全体：</p> <p>セッションの趣旨説明の後、各発表者から約 5 分で概要をパワーポイント等を用いて説明を行った。その後、ポスターセッションを約 50 分間実施した。討議等は全体では行っていない。</p> <p>セッション参加者数は 20 名程度。ポスターセッションでの運用の場合、ポスターセッションを帯で同じ時間帯にならべるなどできれば参加者が多くなると思われる（事務局側の調整が大変だとは思いますが）。また、セッションに参加できなくてもセッションの趣旨にあった広告やチラシを会場におけるなどポスターセッションならではの良さもアピールできるとよかった。</p>
	<p>(170) 黒崎ひろみ（徳島大学大学院）：災害トリックゲームの開発と実施</p> <p>被害遭遇確率とすごろくのマス目の確率を一致させたこのゲームの、小学生を対象としたようなゲームはないのかという質問を頂き、小学生用にはまた別のゲームがあることを答えた。また、このゲームを実際に試してくださった方から「楽しかった」等の意見が得られた。</p>
	<p>(171) 松村暢彦（大阪大学大学院）：バスを用いた小学校低学年向けシティズンシップ教育のための教材開発と実践</p> <p>授業プログラムとして、小学校 2 年生にあわせて絵本を用いた点と最後に絵本の仮想の空間から自分たちの地域に落としている点が評価できる。学習指導要領の内容と対応したプログラムを作成した点が学校教育に受け入れられる要素ではないかとの指摘をうけた。</p>
	<p>(172) 宮地岳志（(株)バイタルリード）：公共交通に関する学習機会提供の組織的な取り組み事例</p> <p>この仕組みの財源は？できるだけお金がかからない仕組みとなるように心がけた。立ち上げは運輸局の公共交通活性化プログラムで行い、ランニング費用については、窓口となっている「みんなが利用したくなる生活交通推進会議（山口県バス協会、山口県）」のちらし作成費、教材費のみで、あとはボランティアである。</p> <p>この事業で求められる成果は？</p> <p>公共交通の利用数、CO₂ の削減量など短期的な行動の変化はもとめず、学習者の公共交通の対する関心の向上、気付きが得られることを成果目標とした。</p>
	<p>(173) 今井唯（筑波大学大学院）：交通・環境教育が児童とその保護者に与える影響に関する研究</p> <p>MM 全体としては、「態度」から「行動」へ結びつけることの困難さや、公共交通不便地域では適応が難しい。というご意見をいただいた。また、「ロコミ」に関して、元々の親子間コミュニケー</p>

ション量の影響や、親子での変容心理要因の違い、ロコミを「しなかった」心理要因は何であるか？等についての解釈に関して、討議を行った。

(174) 森本恵美 (徳島大学大学院)：長期インターンシップによる“公益観”を有する技術者の育成

興味のある人たちが集まって、積極的な討議が出来たと感じた。

主な討議の内容は下記の通り。

- ・ 学生教育の支援体制 (企業, 大学)
- ・ 必要な経費の負担方法について
- ・ 派遣地域及び派遣先企業規模
- ・ 学生の抱える疑問, 土木に対する学生の意見

教育方法も, ツール (カリキュラム) 開発のどちらにも言えることだが, 事後評価や効果測定が十分ではないと感じている。他分野の手法等をうまくとりいえるのも, 土木計画の長所だと感じているので, わたくしも含め, 事後評価や効果測定の視点をもった教育方法の発表を増やしてゆくことが大切と感じた。

※発表件数に応じて適宜追加してください。